

丸玉木材株式会社津別工場（津別町）

1902年(明治35年)の創業で、合板開発・製造に100年以上の歴史があります。近年では、いち早く北海道産植林木に着目し、針葉樹構造用合板を最新の製造ラインで製造しています。また、製造時に発生する木くずを燃焼させるバイオマスセンターを稼働させ工場の動力と熱源のほとんどをまかっています。URL：<http://marutama-ind.com/index.html>

ゼロカーボンの取組

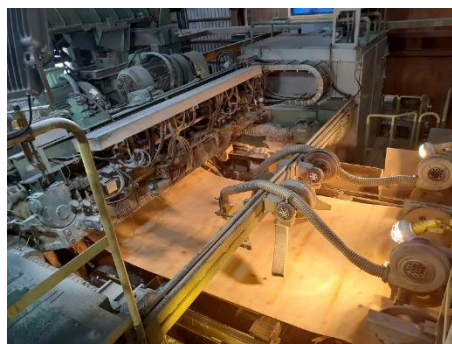
○バイオマスエネルギーセンター

合板工場で生じる木くずをバイオマスボイラーの燃料として、工場でする熱・電気エネルギーのほぼ全量を供給しています。又、グリーン電力証書を販売しており、2021年度では23,297,197kwh(北海道内一般家庭約6,900世帯/年相当)の販売実績となっています。

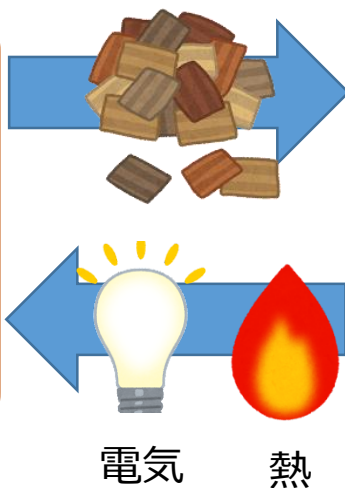
【設備の例】

丸玉木材(株)津別工場では、地元の植林木を活用し、合板、単板積層材、内装建材用の台板等を生産しています。この製造工程で生じる木くずを収集し、場内のバイオマスエネルギーセンターへ送ります。バイオマスエネルギーセンターでは、この木くずを燃料とした設備で熱と電気を作ります。この熱と電気は、合板工場のエネルギーとして活用しています。

合板工場



木くず



バイオマス
エネルギーセンター



電気

熱

特に力を入れていること 工夫している点

脱炭素の機運が高まる前から、コスト削減のためにこの取組を行っており、FIT認定を取得しました。

津別町の森づくり基金への寄付や、町内唯一の病院を長年運営するなど、地域貢献にも積極的に取組んでおり、町ではこの寄付により、町内私有林の造林など森林の整備を行い、森林資源の循環に寄与しています。



また、北海道の「北海道新エネルギー促進大賞」(平成20年)、「北海道ゼロエミ大賞」優秀賞(平成22年)、国の「新エネ大賞・経済産業大臣賞」(平成20年)を受賞したほか、国の「新エネ百選」(平成21年)にも選定されています。

今後の目標・取組

現在、産廃として処理されているバイオマスボイラーの燃えがらを合板接着剤の補助材料として使用する開発を進めており、より環境に優しい工場を目指しています。

また、これまで造林対象とされていなかったシラカバを主とした広葉樹を合板材料として利用することで、地域木質バイオマスの更なる有効活用を実現していきます。